



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
20 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学附置研究所・センターシンポジウム

京都からの提言

21世紀の日本を考える(第3回)

「人間と自然：新たな脅威と命を守るしくみ」

日時：平成20年3月8日(土)

場所：横浜 新都市ホール

主催：京都大学 附置研究所・センター

後援：読売新聞社・(財)京都大学教育研究振興財団

報告書

京都大学 附置研究所・センター シンポジウム
京都からの提言－21世紀の日本を考える(第3回)

報告書

「人間と自然:新たな脅威と命を守るしくみ」



(写真:読売新聞社提供)

まえがき

第3回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの提言-21世紀の日本を考える」を平成20年3月8日（土）、横浜「新都市ホール」において開催いたしました。今回は、「人間と自然：新たな脅威と命を守るしくみ」というテーマで、医学・生物学系の附置研究所・センターが中心になって企画いたしました。本報告書は、当日の記録をまとめたものです。

昨今、再生医療で注目されている万能細胞や人工多能性幹細胞、インフルエンザやエイズといったウイルス感染症、放射線・紫外線による障害や環境問題といういずれも国民の健康・生活に直結するテーマで講演を行っていただきましたところ、国民にとって非常に関心の高い内容ということもあり、900人以上の参加者を得て会場は熱気に包まれました。事前にいただいた質問の多さからも関心の高さをうかがうことができました。演者の先生方には最先端の研究成果をたいへんわかりやすくご紹介いただき、最後にパネルディスカッションで今後の展望、解決すべき問題点について議論を深め、成功裡に終えることができました。

科学技術立国を標榜する我が国においては、優秀な科学者の養成が必要不可欠な課題です。しかし、現状では、その根幹を支える学位を取得した若い研究者の就職難や子供の理科離れといった多くの問題に直面しています。毎年、国立大学法人における人件費は削減され続けており、大学院重点化で育ってきた多くの若い研究者が職を得られず研究の道をあきらめなければならないという非常事態が起こりつつあります。さらに、この状況を目の当たりにしたより若い世代が、研究者を目指さなくなっています。これはわが国にとって研究崩壊の前兆とも言うべき大変憂慮すべき事態です。志を抱く若い世代に夢と希望を与える環境を整備し、科学の面白さと重要性を伝えることが急務です。私たちの人件費や研究費の多くは税金で賄われている以上、研究崩壊を防ぐには国民の理解と支持が必要です。私たち研究者は普段は研究室に閉じこもって研究に没頭しているわけですが、広く一般の方々に研究のおもしろさや重要性を理解していただくためにも、今回のようなシンポジウムを継続して開催することが求められています。今回参加していただいた多くの聴衆の方々から、励ましや感謝、期待のこぼ、さらに毎年やってほしいといった強い要望をいただきました。このような国民からの声や暖かい支援は、私たちにとりましてなによりの励みになります。このような声を糧にして、研究環境の改善を図るとともに、研究に邁進する決意を新たにしているところです。

さて、今回の運営経費は、各附置研究所やセンターによる負担に加えて、総長裁量経費、京都大学教育研究振興財団、読売新聞大阪本社から多くのご支援をいただきました。ここに改めて感謝申し上げます。また、当日ご参加いただいた演者、コーディネーター、パネリスト、および7時間以上の長丁場に最後まで熱心にご参加いただいた聴衆の皆様方に深く感謝申し上げます。さらに、本シンポジウムの運営面において多大なご支援をいただいた読売新聞大阪本社の関係各位、京都大学附置研究所・センターの関係教職員各位、および事務局として本シンポジウムを成功に導いていただいたウイルス研究所事務長および職員一同に感謝申し上げます。最後になりましたが、今回たいへん多くの参加申し込みがありました。会場の都合でお断りした方々にお詫びいたします。これからも本シンポジウムを通して最先端の研究成果を発信してまいりますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

京都大学ウイルス研究所長 影山龍一郎

目次

まえがき

開会挨拶	京都大学総長 尾池 和夫	1
	京都大学副学長 松本 紘	3
講演1	ES細胞の驚異的能力と可能性—なぜ万能細胞とよばれるのか	4
	物質—細胞統合システム拠点長・再生医科学研究所教授 中辻 憲夫	
講演2	人工多能性幹(iPS)細胞がつくる新しい医学	17
	物質—細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センター長 ・再生医科学研究所教授 山中 伸弥	
講演3	ウイルスと生命と病気	31
	ウイルス研究所副所長 松岡 雅雄	
講演4	放射線や紫外線にみるDNAの傷と生物の危機管理	45
	放射線生物研究センター長 小松 賢志	
講演5	生態学が浮き彫りにする“いまそこにある危機”	59
	生態学研究センター長 高林 純示	
パネルディスカッション	「人間と自然:新たな脅威と命を守るしくみ」	71
	パネリスト 物質—細胞統合システム拠点長・再生医科学研究所教授 中辻 憲夫 ウイルス研究所副所長 松岡 雅雄 放射線生物研究センター長 小松 賢志 生態学研究センター長 高林 純示 人文科学研究所准教授 加藤 和人	
	ゲストパネリスト 横浜国立大学環境情報研究院教授 松田 裕之 読売新聞大阪本社編集局科学部次長 行成 靖司	
	コーディネーター こころの未来研究センター長 吉川 左紀子	
閉会挨拶	経済研究所長 西村 和雄	93
〔資料〕	案内チラシ 4月4日付 読売新聞記事(大阪本社発行)	

京都大学附置研究所・センターシンポジウム
京都からの提言
21世紀の日本を考える（第3回）
「人間と自然：新たな脅威と命を守るしくみ」
報告書

発行日 2008年9月16日発行
編集・発行 京都大学ウイルス研究所内
京都大学「京都からの提言」事務局
住 所 〒606-8507
京都市左京区聖護院川原町 53
T E L 075-751-4002
印刷所 双林印刷社



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
20 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学 附置研究所・センター

- 化学研究所
- 人文科学研究所
- 再生医科学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 基礎物理学研究所
- ウイルス研究所
- 経済研究所
- 数理解析研究所
- 原子炉実験所
- 霊長類研究所
- 東南アジア研究所
- 放射線生物研究センター
- 生態学研究センター
- 産官学連携センター
- 地域研究統合情報センター
- 学術情報メディアセンター
- フィールド科学教育研究センター
- こころの未来研究センター